

# ニュースクリップ & 映像教材

- 情報メディア学会「第3回研究大会」開催
- パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会「第8回教育研究・eラーニングセミナー」開催
- 「第45回科学技術映像祭」入選作品決定
- 小・中学校パソコン作品コンテスト『メディアポスト2003』～「総合的な学習の時間」成果発表～入選作品決定
- 松下視聴覚教育研究財団「第30回実践研究助成」ならびに「第11回研究開発助成」助成先決定

## 研究会情報

### ■「情報メディア学会第3回研究大会」開催

情報メディア学会では、「情報メディア研究の潮流と今後の展開」を基調テーマに、標記研究会を開催する。

〈開催日時〉

平成16年6月26日（土）

9：40～18：00

〈会場〉

東京大学 山上会館大会議室・201・202会議室

（東京都文京区本郷7-3-1）

〈内容〉

○基調講演

「基礎情報学とは何か—情報学の潮流を踏まえて—」／西垣通氏（東京大学教授）

○シンポジウム

「情報メディア研究の潮流と今後の展開」／矢野直明氏（サイバーリテラシー研究所代表）、

大黒岳彦氏（明治大学）他  
〈問い合わせ先〉

情報メディア学会事務局

〒305-8550 つくば市春日1-2

筑波大学図書館情報学系内

FAX 029-859-1364

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsims/>

### ■「第8回教育研究・eラーニングセミナー」開催

（社）パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会では、e-Learningのコンテンツ制作と新しいビジネス環境の展開・探求を行うことにより、時代ニーズにあった産業創出を目指す活動として、標記セミナーを開催する。

〈開催日時〉

平成16年4月9日（金）

13：30～16：50

〈会場〉

機械振興会館地下3階研修2号会議室

（東京都港区芝公園3-5-8東京タ

ワー前）

〈内容〉

○「コンテンツ制作ワーキンググループの挑戦報告」

○「人材育成とネットワーク教育コンテンツ」：中川一也氏（ネットワンシステムズ(株)人材開発本部ネットワークアカデミー部長）

○「人材育成のビジネスコンテンツ戦略（仮題）」：廣瀬文男氏（ウイルソン・ラーニングワールドワイド(株)取締役e-テクノロジ・センター長）

○討論会「人材育成のためのeラーニングコンテンツビジネス」／司会：大川善邦氏（パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会教育研究委員会委員長）

〈問い合わせ先〉

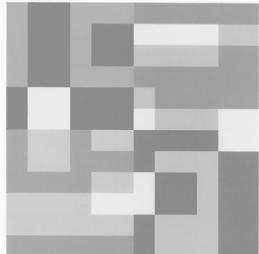
（社）パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会

〒105-0011 東京都港区芝公

## ブックレビュー

行政関係者のための  
新訂  
入門・生涯学習政策

岡本 薫 著



財団法人 全日本社会教育連合会

## 「改訂 入門・生涯学習政策」

岡本薫著 (財)全日本社会教育連合会  
2004年1月刊 A5判 115頁  
1,260円(税込)

読んだ後に、頭が整理されたような気になる本である。いつものながらの著者の的確な例示と明解な解説が展開されている。

本書は、平成6年に出版された『入門・生涯学習政策』に大幅な改訂を加えたものである。当時のものもそうであったように、教育行政担当者、学校関係者、社会教育関係者あるいは大学生など幅広い人々に、生涯学習の基本的な理解を明確にするために活用されることを薦める。とかく生涯学習の理念自身が幅広く、本来整理したうえで議論しなければならないことをしていないために、無駄な時間をかけてしまうことがある。著者は『「生涯学習」に『あらゆる学習』が含まれるからといって、『どんな学習活動を推進しようとする自由である』とは言えません。利用

できる資源(予算・人員等)が無限でない以上、行政は、住民の福祉や公益性といった観点から、『どこに税金を使うべきか』という判断を常にに行わなければならないし、そのような判断や方針を住民に提示し、民主的な手続き(ルールに基づく議会での議決等)を経て、各地域ごとの政策決定を行っていく必要があるのです」と指摘している。この問題意識から、「生涯学習と社会教育」「生涯学習と生涯教育」「なぜ生涯学習社会が必要か?」「生涯学習と行政の役割」という本当の意味で詰めていない事柄を著者は、整理して私たちの前に提示している。

著者も指摘しているが、今後は読者が、ともに考えて実践の場にかかす順番である。

(坂井知志)

園3-5-22

TEL 03-3438-1869

FAX 03-5472-5338

E-mail: office@mb.pcua.or.jp

http://www.pcua.or.jp/

## コンクール情報

■「第45回科学技術映像祭」  
入選作品決定

(財)日本科学技術振興財団、(財)日本科学映像協会、(社)映像文化製作者連盟、(財)つくば科学万博記念財団の共催による標記映像祭が開催された。当映像祭は、優れた科学技術に関する映像を選奨し、科学技術の普及と向上を図ることを目的に、昭和35年から毎年開催されてきた。

今回も、審査委員による審査試写ならびに討論の結果、映画(フィルム・ビデオ・DVD)およびテレビ番組の参加作品82本の中から、次の主な入選作品が

決定した。

〈内閣総理大臣賞〉(1作品)

ポピュラーサイエンス部門

「NHKスペシャル地震波が巨大構造物を襲う」(テレビ作品)

企画・制作/日本放送協会

〈文部科学大臣賞〉(14作品)

科学教育部門、基礎研究部門、

科学技術部門、医学部門、ポピュラーサイエンス部門、それぞれから計14作品が選出された。

詳細は下記のWebサイトを参照のこと。

〈入選作品上映会〉

4月から11月にかけて、全国15か所で入選作品の上映会が開催される。詳細はおなじく下記の



Webサイトを参照のこと。

〈問い合わせ先〉

(社)映像文化製作者連盟

TEL03-3501-0236

http://ppd.jsf.or.jp/shinko/pro/s-m/index.htm

## ■小・中学校パソコン作品コンテスト『メディアポスト2003』～「総合的な学習の時間」成果発表～入選作品決定

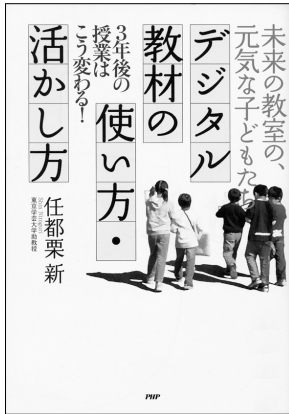
「メディアポスト」実行委員会主催による標記コンテストが開催された。今回は、小学校部門76校87作品、中学校部門32校36作品の応募があり、このほど入選作品が決定した。

〈文部科学大臣奨励賞〉

小学校部門：「たんけん・発見・南小泉～見たこともない南小泉の地図をつくろう!～」(宮城県仙台市立南小泉小学校3年)

中学校部門：「科学部探検隊」(千葉県印西市立原山中学校・

## ブックレビュー



### 「未来の教室の、元気な子どもたち デジタル教材の使い方・活かし方」

任都栗新著 PHP研究所 2003年12月刊 A5判 227頁 1,680円(税込)

まず見て驚かされるのは、カメラ写真の多さである。140枚以上もの写真が掲載され、しかもそのほとんどは児童・生徒がデジタルカメラで撮影した写真である。

この多くの写真を見ることで、12の授業実践における子どもたちの活動が、手に取るようになる。授業を支援した著者の発想である「小学校ではともかくパソコンにふれさせる」というねらいが、見事に的中したと考えられる。

さらに、「教師は子どもたちの元気を引き出すコーディネーター」であるとの著者の主張を生かすために、指導にたずさわった教師や教頭、校長らが、授業の感想を生で語っているのがまた面白い。

チョウの幼虫の撮影をさせる

ために子どもにデジタルカメラを渡すと、子どもはランドセルにぶら下げたマスコット人形や、自分たちがピースをした姿を撮影してしまう。それを担当がこっそりと削除するなど、隠れた苦労も隠さず書いてある。

また、実践で利用したセレクトターというシステムやPDA(個人用情報機器)、電子白板(デジタルボード)などは「かなり大きな教育的効果が上がるという説得力がないと(使うのは)厳しい」という担任の本音を書いていることには、共感さえ覚える。

非の打ち所がない授業事例を載せている従来の本とは、一線を画している。自分にも何かできると教師に勇気を与える1冊であるといえよう。

(和田正人)

#### 科学部)

その他、両部門に優秀賞2作品、佳作2作品が選出された。詳細は下記のホームページより。  
<http://www.maxell-kids.com/contest/contest2.shtml>

#### ■松下視聴覚教育研究財団「第30回実践研究助成」ならびに「第11回研究開発助成」助成先決定

当財団による標記助成先が決定した。

「実践研究助成」は、視聴覚・情報メディアの効果的な活用及び教材開発に関する実践的な研究計画への助成を行うもので、今回の助成総数は60件である。また、「研究開発助成」は、視聴覚メディアを活用してより豊かな人間性を育成する研究や、新しいメディア活用の方角性を示唆する独創的な研究開発への助成で、今回の助成件数は20件である。

#### 〈助成先〉

同財団のホームページ参照  
<http://www.mef.or.jp/>

### 短 信

#### ■文部科学省生涯学習政策局学習情報政策課の異動

- 学習情報政策課→参事官(学習情報政策担当)〔組織改正〕
- 参事官付企画官・情報政策室長(新設)＝(初等中等教育局幼児教育課幼児教育企画官・幼稚園運営支援室長＝土屋光弘氏)
- 課長補佐・情報政策室長＝清浦隆氏→(独)日本学術振興会国際事業部人物交流課長(後任・京都工芸繊維大学助教授(地域共同研究センター)＝中西貴輝(参事官補佐))
- 教育メディア調査官＝長塚正明→大臣官房文教施設部計画課専門官(後任・(独)国立オリンピック記念青少年総合センター事業部事業課長＝伊藤康志

#### (参事官付教育メディア調査官))

- 専門職・内閣官房情報通信技術 I T 担当室＝後藤教至→初等中等教育局初等中等教育企画課専門職(後任・文化庁文化庁芸術文化課＝北野允(参事官付・内閣官房情報通信技術(I T)担当室))
- 庶務係＝上島和幸氏→初等中等教育局教育課程課教育課程第一係・鳴門教育大学研修生(後任・学習情報政策課企画調査係＝船木茂人氏)
- メディア係(映画審査担当)＝木船聡氏→東京大学研究協力部研究協力課博物館会計係(後任・九州工業大学大学院生命体工学研究科総務担当＝永松靖子氏(参事官付メディア係(映画審査担当)))
- 企画調査係＝船木茂人氏→参事官付庶務係(後任・東北大学医学部附属病院医事課＝池ノ辺沙知氏(参事官付企画調査係))